



新技術活用システム (NETIS) における平成24年度推奨技術等の選定結果について

平成24年5月11日

この度、平成24年度推奨技術として4技術、準推奨技術として15技術を選定しました。(別紙1参照)

国土交通省では、民間企業などの有用な新技術の活用促進のため「公共工事等における新技術活用システム」を運用しています。

その中で、公共工事等に関する技術の水準を一層高めるため、画期的な技術について、有識者会議(新技術活用システム検討会議)にて、「推奨技術」「準推奨技術」として選定しています。

選定された技術に対しては、総合評価方式の技術提案における積極的な評価などの普及啓発や活用促進等を行います。(別紙2参照)

事後評価の充実に伴い推奨技術・準推奨技術の合計数は19技術と昨年度の8技術に比べ大幅に増加しています。

<「推奨技術」・「準推奨技術」の年度ごとの選定数>

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
推奨技術	0技術	0技術	1技術	1技術	4技術	4技術
準推奨技術 (H19・20年度は推奨技術候補)	2技術	4技術	7技術	6技術	4技術	15技術

平成24年度推奨技術等の選定対象技術は、主に平成23年度に事後評価された有用な新技術(「設計比較対象技術」「少実績優良技術」「活用促進技術」)

のうち各地方整備局等の新技術活用評価会議および技術審査証明を行っている第三者機関が推薦する技術です。(別紙3参照)

平成24年度推奨技術・準推奨技術

■平成24年度推奨技術(新技術活用システム検討会議(国土交通省))

・法面2号ユニバーサルユニット自在階段

- ・SPR工法
- ・ダンビー工法
- ・グレーチングストッパーSP

■平成24年度準推奨技術(新技術活用システム検討会議(国土交通省))

- ・パルテムSZ工法
- ・情報BOXハンドホール用シリンダー錠付中蓋
- ・オメガライナー工法
- ・オートフラップゲート(Auto Flap Gate)
- ・3次元設計データを用いた計測及び誘導システム
- ・グリットシーバー工
- ・プレキャスト樋門工法
- ・鋼橋仮組立代替工法pbfantom(ピービーファントム)
- ・CATS
- ・高分子系浸透性防水材 アイゾールEX
- ・ひび割れ計測システム
- ・YTロック工法
- ・通信ルートを自動的に組み換える無線通信を用いた水位センシングシステム

平成24年度「推奨技術」・「準推奨技術」の選定について 別紙2

国土交通省では、有用な新技術の活用促進と技術のスパイラルアップを目的として、事後評価を中心とした「公共工事等における新技術活用システム」を運用しています。
当該システムでは、公共工事等に関する技術の水準を一層高めるため、有用な新技術を対象に「推奨技術」「準推奨技術」を新技術活用システム検討会議(有識者会議)において選定し、当該新技術の普及啓発や活用促進等を行っています。
なお、平成21年4月から、「推奨技術候補」は「準推奨技術」に名称を変更しています。

■ 「推奨技術」等の定義

・「推奨技術」

公共工事等に関する技術の水準を一層高めるために選定された画期的な新技術。

・「準推奨技術」

公共工事等に関する技術の水準を一層高めるために選定された画期的な新技術で、推奨技術と位置づけるためには更なる発展を期待する部分がある新技術。

■ 「推奨技術」等の選考要件

- ・当該技術の活用により、従来に比べ飛躍的な改善効果が発揮される。
- ・従来にはない先駆的な取り組みであり、将来、公共工事等における幅広い活用が期待される。
- ・技術内容が画期的であり、将来的に飛躍的な活用効果の改善が期待できる(現状では、当該技術の適用範囲において活用の効果が従来技術と同程度以上であることを最低要件とする。)
- ・技術内容が独創的である等、国際的に先端を行く技術又は先進諸国への技術展開が期待される技術である。
- ・技術内容の応用性、適用性、普遍性等が高く、国内の諸課題の解決への貢献に加えて、国際的な課題の解決など国際貢献に大きく資する。

■ 「推奨技術」等の活用促進に向けた措置

・総合評価方式の技術提案において、対象となる技術が提案された場合は、その審査において積極的に評価されます。

・「施工者希望型」において、発注者が適切と判断する場合は工事成績評定の加点の対象となります。

・NETIS申請者は「〇〇年度 推奨技術(新技術活用システム検討会議(国土交通省))」又は「〇〇年度 準推奨技術(新技術活用システム検討会議(国土交通省))」という名称を使用できます。

・準推奨技術となった技術については、活用等の実績等のフォローアップを行い、翌々年度まで推奨技術選考の対象とします。

新技术活用システム検討会議が選定

推奨技術(10件)

公共工事等に関する技術の水準を一層高めるために選定された、画期的な新技术。

準推奨技術(32件)

公共工事等に関する技術の水準を一層高めるために選定された、画期的だが、更なる発展を期待する部分がある新技术

選考要件

従来に比べ飛躍的な改善効果を発揮

先駆的な取り組みであり幅広い活用が期待される

技術内容が画期的で将来飛躍的な効果の改善が期待できる

国際的に先端を行く技術、先進諸国への技術展開の期待

応用性等が高く、国際的な課題の解決に資する

↑ 新技术活用システム検討会議に推薦

有用な新技术

活用促進技術(44件)

特定の性能又は機能が著しく優れている技術、など。

設計比較対象技術(162件)

技術の優位性が高く、安定性が確認されている技術。

少実績優良技術(59件)

技術の優位性は高いが、直轄工事等における実績が少ない技術。

新技术活用評価会議が選定

多
↑
実績件数
少

低

優位性

高

活用・評価

↑ 評価情報(活用効果評価、試行実証評価、事前審査)として反映された技術(約800件)

新技术(NETIS登録技術)(約4000件)

有用な新技术のインセンティブ

- 工事発注時の総合評価方式での加点
- 工事成績評定での加点(発注者指定型を除く)
- 設計業務の比較検討において対象技術とすることを設計図書に明記等